

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成25年4月4日(2013.4.4)

【公表番号】特表2009-541636(P2009-541636A)

【公表日】平成21年11月26日(2009.11.26)

【年通号数】公開・登録公報2009-047

【出願番号】特願2009-515899(P2009-515899)

【国際特許分類】

F 02D 45/00 (2006.01)

【F I】

F 02D 45/00 374C

F 02D 45/00 374Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年1月17日(2013.1.17)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

パフォーマンスマードPMにおける、異なる実行ユニット2-iによるプログラムの実行は、同期して、または同期せずに、行なわれることが可能である。パフォーマンスマードでは、重複した処理は行なわれず、実行ユニット2-iは、異なる計算またはプログラムを並行して実行する。純粋なパフォーマンスマードPMにおいて、全入力信号E_iが対応する出力信号A_iへと接続されるか、または導かれる。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

構成可能な切り替えロジック部1Bでは、いくつの出力端子または出力信号A_iが設けられているのかについて示される。さらに、切り替えロジック部1Bには、どの入力信号E_iがどの出力信号A_iに作用するのかについて格納される。従って、切り替えロジック部1Bには、異なる出力信号A_iに入力信号E_iを割り当てるマッピング関数(abbreviated function)が格納されている。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

処理ロジック部1Aは、各出力信号A_iについて、どのような形態で入力信号が各出力信号に作用するのかについて定める。例えば、出力信号A₀は、入力信号E₁、…、E_nによって生成される。これは、m=1ならば、単純に、入力信号の連結(Durchschaltung)に相当する。M=2ならば、2つの入力信号E₁、E₂が互いに比較される。この比較は、同期して、または同期せずに、回路1によって実行される。その際、比較はビットごとに行なわれるか、または代替的に、有意なビットのみ互いに比較さ

れる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

パフォーマンスマードPMから比較モードVMへの切り替えは、パフォーマンスマードPMでは、様々な信号出力部へとマッピングされるか、または、連結されている(*d u r c h s c h a l t e n*)実行ユニット2-iが、比較モードVMでは、同じ信号出力部へとマッピングされるか、もしくは連結されることによって、一般的に行なわれる。このことは、特に、実行ユニット2-iの部分集合が設けられることによって、実現される。その際、パフォーマンスマードPMでは、部分集合として考えるべき全入力信号*E_i*が、対応する出力信号*A_i*へと直接的に接続される。一方、比較モードVMでは、全入力信号が1つの信号出力部へとマッピングされるか、または1つの信号出力部へと連結される。代替的に、切り替えは、組み合わせが変更されることによって実現可能である。